防災訓練の結果の概要(要素訓練)

1. 訓練の目的

本訓練は、「泊発電所 原子力事業者防災業務計画 第2章 第7節 第1項 社内における訓練」に基づき実施する訓練であり、手順書等の適用性や要員・資機材確認等の検証を行い、手順等の習熟および改善を図るものである。

2. 実施期間および対象施設

(1) 実施期間

2021年5月1日(土) ~ 2021年11月30日(火)

(2) 対象施設

泊発電所1、2、3号機

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練毎に訓練責任者および訓練担当者を定めて実施した。詳細は「添付資料」に記載のとおり。

(2) 評価体制

定められた手順どおりに訓練が実施されたかを訓練評価者等が評価した。

(3)参加人数

「添付資料」に記載のとおり。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

(1) 緊急時通報·連絡訓練

警戒事態該当事象、原災法第10条事象および原災法第15条事象が発生し、通報連絡が必要となる状況を想定した。

(2) 原子力災害対策本部設置訓練(模擬原子力規制庁緊急時対応センター(以下、「模擬ERC」という。) プラント班との情報共有に係る訓練を含む)

警戒事態該当事象、原災法第10条事象および原災法第15条事象が発生し、原子力災害対策本部の設置が必要となる状況を想定した。

(3)環境放射線モニタリング訓練

放射性物質放出により敷地内の放射線または空気中の放射能濃度上昇の可能性があり、モニタリング等が必要となる状況を想定した。

(4) 退避誘導訓練

原子力災害の発生により、泊発電所構内にいる作業者等の退避が必要となる状況を想定した。

(5)原子力災害医療訓練

原子力災害発生時に、管理区域内で傷病者が発生し、医療対応が必要となる状況を想定した。

(6) シビアアクシデント対応訓練

シビアアクシデントの発生により、事象進展予測等が必要となる状況を想定した。

(7) 緊急時対応訓練

①初期消火訓練

原子力災害発生時に、構内で火災が発生し、初期消火対応が必要となる状況を想定した。

②運転班・機械工作班・電気工作班が実施した緊急時対応訓練

シビアアクシデントの発生により、運転操作等の対応が必要となる状況を想定した。

③軽油汲み上げ・配油訓練

代替非常用発電機、可搬型大型送水ポンプ車等が稼働し、給油が必要となる状況を想定した。

④その他訓練

シビアアクシデントの発生により、対応が必要となる状況を想定した。

(8) 原子力緊急事態支援組織対応訓練

原子力緊急事態支援センターの資機材(遠隔操作ロボット等)による対応が必要となる状況を 想定した。

(9) 資機材輸送・取扱訓練

原子力災害の発生により、自治体から資機材の貸与要請を受け、泊発電所から資機材を運搬する必要がある状況を想定した。

5. 防災訓練の項目

要素訓練

6. 防災訓練の内容

- (1) 緊急時通報·連絡訓練
- (2) 原子力災害対策本部設置訓練
- (3) 環境放射線モニタリング訓練
- (4) 退避誘導訓練
- (5) 原子力災害医療訓練
- (6) シビアアクシデント対応訓練
- (7) 緊急時対応訓練
 - ①初期消火訓練
 - ②運転班・機械工作班・電気工作班が実施した緊急時対応訓練
 - ③軽油汲み上げ・配油訓練
 - ④その他訓練
- (8) 原子力緊急事態支援組織対応訓練
- (9) 資機材輸送・取扱訓練

7. 訓練結果の概要

各要素訓練の結果の概要は「添付資料」に記載のとおり。

8. 訓練の評価

各要素訓練の評価結果は「添付資料」に記載のとおり。

9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

各要素訓練における改善点および今後に向けた改善点は「添付資料」に記載のとおり。

≪添付資料≫

・要素訓練結果の概要

以 上

1. 緊急時通報・連絡訓練(訓練実施回数:2回、参加人数:31名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・警戒事態、施設敷地緊急 事態および全面緊急事 態に該当する事象の発 生を想定した連絡、通報 等および着信確認を実 施	品質保証室員	良	■25条報告に記載される時系列の記載が多くなった場合の記載方法について整理し、通報文の記載マニュアルへ反映した。	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

2. 原子力災害対策本部設置訓練(模擬ERCプラント班との情報共有に係る訓練を含む)訓練実施回数:3回、参加人数:359名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
 ・原子力災害対策本部の設置、EAL判断、本店一発電所間の連絡調整を実施 ・総合管理事務所から集を実施 ・総合管理事務所の参集を実施 ・原子力施設事態即応てといる方が、ののでは、できまれた。 ・原子力を模擬を取るが、できまれた。 ・新規制基準未適合がにおいて、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対し	【泊発電所】 ①運営課長 ②発電所長、所長代理、次長、各課(室)長、各課(室)長、各課(室)長、各課(室)長、各課(室、センター)員 【本店】 ①原子力部長 ②原子力事業統括部員、各室部員	良	■備え付け資料の手順フローについて、 適用中のものだけではなく、今後適用 予定の手順フローも準備して活用す ることとし、ERCプラント班への説 明性向上を図った。	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

3. 環境放射線モニタリング訓練(訓練実施回数:35回、参加人数:102名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・可搬型モニタリングポスト、可搬型気象観測設備の配備および空間放射線量率測定を実施		良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

4. 退避誘導訓練(訓練実施回数:2回、参加人数:10名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・退避誘導を行う際の所定 の集合場所の確認を実 施		良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

5. 原子力災害医療訓練(訓練実施回数:6回、参加人数:43名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・汚染傷病者の搬送および 傷病者の汚染検査、除染 等を行うとともに、搬送 時の汚染拡大防止措置 を実施	①労務安全課長	良	■緊急医療室に通じる扉を開放した際の、扉固定方法について改善(ドアストッパーの補強等)を実施し、傷病者搬送の安全性向上を図った。	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

6. シビアアクシデント対応訓練(訓練実施回数:2回、参加人数:12名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・事故事象の進展予測および事故収束へ向けた対策案の立案等を実施	①技術課長 ②技術課員、防災・安全 対策室員、保全計画課員	良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

7. 緊急時対応訓練

①初期消火訓練(訓練実施回数:61回、参加人数:306名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・消火に使用する車両の操 作、消防車を使用した放 水、防護具着用等を実施	②各課(室)員、協力会	迩	■現場指揮者と消火要員の連携(3WAYコミュニケーションの徹底、単独行動の禁止)について再教育を実施した。	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

②運転班・機械工作班・電気工作班が実施した緊急時対応訓練(訓練実施回数:384回、参加人数2,303名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
【発電室】 ・個作業訓練として、弁シリーで、第一次のでは、中作機として、会員のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	①発電室長、機械保修課長、制御保修課長 ②発電室員、機械保修課員、制御保修課員、協力 会社員	良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

③軽油汲み上げ・配油訓練(訓練実施回数:3回、参加人数:12名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・ディーゼル発電機の燃料 油貯油槽からの軽油汲 み上げ手順確認、ホース 敷設を実施・可搬型SA設備への補給 を実施	①運営課長 ②運営課員、原子力教育 センター員、原子力安 全・品質保証室員	良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

④その他訓練(訓練実施回数:210回、参加人数:1,528名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・大津波警報発令時の初動 対応、水密扉の閉止等を 実施	①施設防護課長 ②協力会社員	良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。
・構内アクセスルートの確 認のための構内道路補 修作業等を実施	①土木建築課長 ②土木建築課員、協力会 社員	良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。
・緊急時対策所用発電機および換気空調設備立上げを実施・全交流電源喪失時の緊急時対策所給電用発電機のケーブル接続等を実施	①運営課長 ②運営課員、原子力教育 センター員、原子力安 全・品質保証室員、協力 会社員	良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

8. 原子力緊急事態支援組織対応訓練(訓練実施回数:1回、参加人数:28名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・原子力緊急事態支援センターの資機材(遠隔操作ロボット等)の輸送情報等の連携、放射線管理、遠隔操作ロボット等の操作等を実施		良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。

9. 資機材輸送・取扱訓練(訓練実施回数:3回、参加人数:15名)

概要	実施体制 (①訓練責任者、②訓練担 当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に 向けた改善点
・資機材輸送先である後方 支援拠点の場所および 通行ルートの確認を実 施・資機材の車両への積載等 を実施		良	■特になし	■今後も継続して訓練を行い、習熟を図 る。